





夫強を賞せしむる先師の
乃或政史の中野の中を行
以て灌花園の庭の層の壁

自然の姿が後出
升子夫

逸子吹くまも福壽の瑞乳

虫へおこほや元日此歌
娛水

列見のむくし味を品子急
亀城坊

推橙の枝多まわく魚鱗生
流思

燈おろけし高ひの如
枕月

玉澤の川をまをるる裏此月
里仙

系くも宿も夜も七夕
漢和坊

をひありく花や層の岸源く
風和坊

陸尔出かく若殿の将
全家

果ををける社勢は表業
友免

一郷を酒造きせる初機
急水

乳をを隠ま裁後惟子
只樂

人目もく園をあらん謀の弱
隣水

さあああたの協を吾心
啼鶯

僧の共しるる時供も等あ
硯壽

狂言の語も不初もを以討者
岩南

道心れしと異帳の鐘
其節

退分此乃子迷ひる都於
徐風

流浪のうき志もて者感
龜山

香紙輿琴を強くする此奥
魚山

以をたしよるる昨走首重
魚山

木かしり吹く仕舞へにさし
魚山

若名前不物くる各層
魚山



玉女侍も断る霞の浮世に

一矢うらとあく海を富士川

降る海をゆりく三枝の目も

帰るもの鐘を多し編人

門下力も折る多し詠の多し

その道も多し多し多し

軍一れ苦んか多し詠の玉

難は雄浪と多し詠

新心しゆりく車は十支の玉

是れ詠の詠句く此素

多欲仙行

哥佛
曉鳥

詠吟 茶書略

健を斐芽出りく二度の奴

子代と此苦んか又の種あり

立軸の松の多し詠の多し

多し一那也十八の玉れ詠の

樂人ん遠葉山の後詠

是と其結ひ海もや後詠

今返り詠ありての多し層

郷も杖突く多し多し多し

下り詠や是れ又も子代の玉

世の卦や子代の詠れ多し

今も杖突く多し多し多し

詠多し多し多し多し多し

嘆も詠も是れ多し多し多し

者老を多し多し多し多し

壽尔文も多し多し多し多し

梅の枝葉も多し多し多し

疾も卦も子代十之りの若緑

三

植松

仁保

風和坊

全志

友兜

硯毒

隣水

流思

岩南

里耕

其朝

只樂

其翠

曉鳥

亀城坊

漢和坊

枕月

春水

其は花也静も耳明の如き也
氣はふふ不悔りて如き也
百子啼きや耳明の喜を
改め歌ひもふふ喜日れ
啼鶴
菟水
里仙
龜山

○
教父のふみせ肯ひく

手傳人授りけりる梅本礼 徐風

大馬北歌ひを言ひて耳明の

喜返還へ付れい世との扱ち

息徐風尔清り 亦も喜歌

仲弓乃り

灌花園

風中尔尔悠延り 嬉水

喜日

文通

叙の松や桃と梅の子代結ひ 三五亭

長門歌

壽うむる戸も笑ひれ友なる 素全

六花園

青陽や雲の霞れりし 緑松

防府

柿あまきく進子代の叙の雲 竹隣

宮市

花前んははる川 秋

三ノ

文音

秋をさう

秋

防の山口ある灌花園はし

あつこの春華春の如き也

廣らうとふの波へあつて

健るるまはと志係 解りぬ

中宮をきれりあつて

春と

春香園

